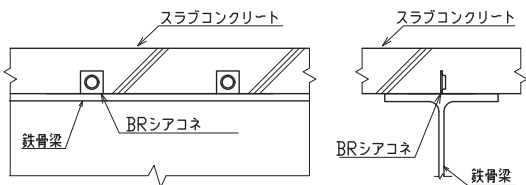


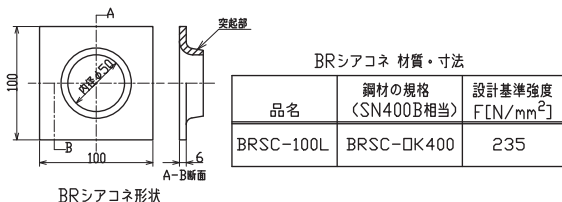
1. 工法概要

本工法はバーリングシアコネクタ(製品名:BRシアコネ)を使用した鉄骨梁とコンクリートスラブの接合法である。BRシアコネは鉄骨梁とスラブコンクリートの一体化を図るすれ止めとして機能する。BRシアコネはH形断面梁のフランジ面にすみ肉溶接で取付をするため、現場工期の短縮、現場省力化を可能とする工法である。



2. BRシアコネの仕様

BRシアコネはバーリング加工により、鋼板に突起部と貫通孔を形成した鋼板(指定建築材料)を使用したすれ止めである。



3. 設計および配置数量

設計・施工の詳細は、BCJ評定-ST0298-01の評定図書、設計施工マニュアルによる。本工法は下記(1)・(2)の使用方法に対応する2種類の設計方法を規定する。

- (1) コンクリートスラブに生じる水平力等を伝達するすれ止め
- (2) コンクリートスラブと鉄骨梁の合成効果を期待した梁の接合部材配置数量・間隔については構造特記による。

● 梁すれ止め配置リスト

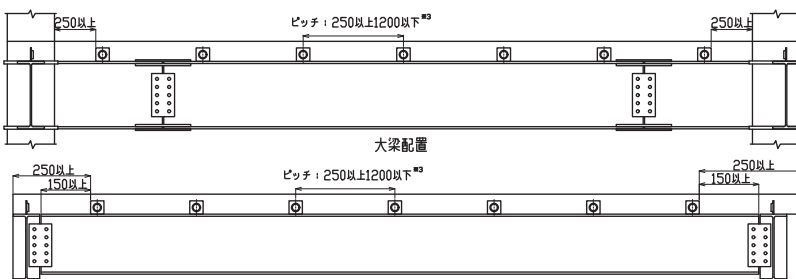
梁符号	梁幅	配置	間隔	備考
G1	300	■直列/□並列	1200	記載例

4. 適用範囲

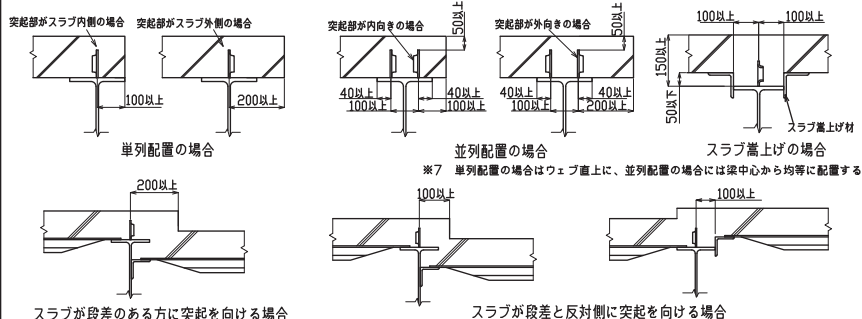
項目	適用部材および部材に関する規定	
構造種別	鉄骨梁 (H形鋼、組立H形鋼)	
材質	基準強度 440N/mm ² 以下	
梁に関する規格	鋼種	SS400 SM400A・B・C SM490A・B・C SM490YA・YB SM520B・C SN400A・B・C SN490B・C SN490C-TMC NSYP345B SMA400AW・BW・CW SMA400AP・BP・CP SMA490AW・BW・CW SMA490AP・BP・CP TMCP325B・C TMCP335B・C TMCP385B・C TMCP440B SA440B・C SA440B-U・C-U
合成梁とする場合	梁種別	小梁
	梁せい H	900mm以下
コンクリートに関する規格	せん断スパン比	$5 \leq L/H \leq 25$ (L:梁のスパン)
	コンクリート種別	普通コンクリート
	設計基準強度 F_c	18~36N/mm ²
	粗骨材の最大寸法	20、25mm
スラブに関する規定	上面かぶり ^{※1}	50mm以上 (※1 BRシアコネ上面のかぶり)
	スラブ厚さ	150mm以上 (BRシアコネを配置する梁上部)
	スラブ鉄筋比	梁の材軸方向と直交する方向: 0.2%以上
	合成デッキスラブ ^{※2}	デッキ山高さ50mm以下
スラブ内鉄筋	異形棒鋼	SD295A・B、SD345、SD390 (JIS G 3112-2010)
	溶接金網及び鉄筋格子	線径が6mm以上の溶接金網または鉄筋格子 (JIS G 3551-2005)

※2 合成デッキプレート使用の際は、別途耐火認定の仕様・制約があります。

5. 納まり



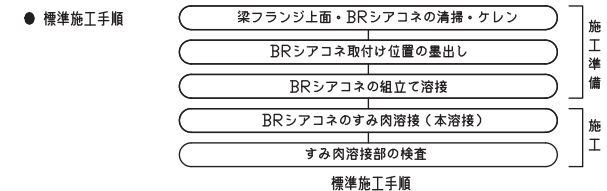
- ※3 $F_c \geq 21$ の場合とする。 $F_c < 18$ の場合は設計施工マニュアルを参照。
- ※4 一つの梁に最低3箇所以上配置する。
- ※5 BRシアコネは等間隔に計画する。他部材と干渉する場合はピッチの規定を満足する範囲で移動し、全長に渡って偏りなく配置する。
- ※6 BRシアコネは梁の材軸方向に平行とする。



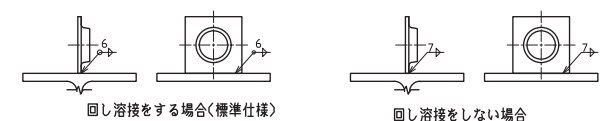
※7 単列配置の場合はウェブ直上に、並列配置の場合には梁中心から均等に配置する。

※8 ここに示す配置方法に依らない場合は工事監理者と協議する。

6. 施工



- 準拠指針
本標準図に規定される以外の事項は【鉄骨工事技術指針】、【建築工事標準仕様書 (JASS6)】、【建築構造用高性能590N/mm²鋼材(SA440)設計・溶接施工指針】等、関係基準・指針による。
- 溶接材料
BRシアコネの引張強度(400N/mm²)を満足する【鉄骨工事技術指針・工場製作編】等の指針に規定される溶接材料を使用する。
- 本溶接
BRシアコネはすみ肉溶接で梁フランジに接合する。特に指定のない場合は回し溶接を行う。すみ肉溶接のサイズは以下とする。回し溶接しない場合の始端の長さは5mm以内とする。



7. 溶接部の検査と寸法許容差

- 溶接部の検査
溶接部の外観検査は全数実施する。溶接サイズは目視で全数チェックし、特に過大あるいは過小と思える箇所を測定器具により測定する。
- 許容差
配置に関する取付許容差を示す。許容差を外れた場合、修正・再製作などの処置を実施し、許容差内に納める。

管理箇所	取付許容差	
	管理許容差	限界許容差
φ1	±3mm	±6mm
φ2	30mm以下	-
φ3	±6mm	±9mm
φ4	±6mm	±9mm

8. 建て方とデッキ敷き込み

- 【鉄骨工事技術指針・工事現場施工編】等の指針に従い鉄骨建方時の墜落防止措置を講ずるとともに、梁上歩行時の注意喚起を行うこと。
- デッキプレートは梁上で分割する。デッキプレートの接合は各デッキプレートの仕様に従う。



※9 BRシアコネを吊りピース、挿入直しピースとして使用しないでください。